

青森市立青嶺のぞみ中学校校歌制作者 Sing Like Talking のお二人からのメッセージ

今回は、とても名誉な機会をいただき光栄の極みです。

この作品が、生徒のみなさんの学びの季節にとって、なにかしらの支えになってくれたら、
また在校中、そして卒業後も、ふと口ずさんでいただける親しみを感じるものになってくれたなら、
とても幸せでございます。この度は、ありがとうございました。

Sing Like Talking 佐藤竹善

この度、「青嶺のぞみ中学校」の校歌制作という大変光栄な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

青森市出身の私にとって、故郷の未来を担う生徒の皆さんのために歌をつくることは、これまで音楽活動が続けてきた中でも、とりわけ大きな意味を持つ仕事となりました。故郷への恩返しともいえる、このような名誉ある機会をいただけたことを大変嬉しく思っています。

1988年のメジャー・デビュー以来、今日に至るまで、私はポップスという大衆音楽と向き合い続けてきました。今回、校歌を手がけるにあたり、まず何より大切にしたいと考えたのは、「青嶺のぞみ中学校」が掲げる美しい理念を、歌として力強く表現することでした。

制作に先立ち、学校が「学びの園」として大切にしている理念やその背景、そして、ここで学ぶ生徒の皆さんへの思いなど、さまざまなお話を伺いました。その一つひとつが、歌詞を紡いでいくうえで大切なヒントとなりました。校歌を制作するのは私にとって初めての経験でしたが、そうしたお話に触れたことで、自然と情景が浮かび、いつものように一つの作品と向き合う気持ちで筆を進めることができました。

この学校で学ぶ生徒の皆さんの心に灯る「希望」。その希望が、これから幾度となく目にするであろう「茜色の空」に映し出されていく——そんな情景を心に描きながら、この校歌を書き上げました。

学ぼうとするひとりひとりの尊い意志が、必ず未来を築いていく。その象徴として、歌の中では「茜色の空」を大切なモチーフとしています。

そして、生徒の皆さんがこの歌を口ずさむたびに、自分が抱いた最初の想いを思い出し、時には自分自身を励まし、時には仲間を励ましながら、それぞれの目標に向かって歩んでいってほしい。

そんな願いを、この校歌に込めました。

これから長い年月にわたり、この歌が生徒の皆さんとともにあり、学校で過ごした時間や仲間との思い出とともに、ひとりひとりの心の中に残っていく歌になったとしたら、これほど嬉しいことはありません。

「青嶺のぞみ中学校」の未来に、素晴らしい歴史が刻まれていくことを心より願っています。

この度は本当にありがとうございました。

Sing Like Talking 藤田千章